



未来

第50号

令和2年
4月

令和2年度を迎えて — 広島記念病院高度医療講座開設 —

病院長 宮本 勝也

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の嵐の中で始まりました。日本では小康状態ですが(この冊子発行時にはオーバーシュートしている可能性もありますが)、欧米はまさにパンデミック状態です。この状況では、東京オリンピックは延期せざるを得なかったでしょう。人類の歴史は感染症との戦いの歴史です。天然痘、ペスト、インフルエンザ、SARS、エボラ出血熱等に対して、人類は英知を結集してこれらを克服してきました。新型コロナウイルスのワクチンが出来るまで1年以上かかるようですが、いずれ収束できると信じています。



今回、日本人の感染者、特に死者が少ないのは何故でしょう。島国であり外から入りにくいこと、国民皆保険制度により医療が身近な存在であること、日本の医療水準の高さ等が考えられます。また、それ以上に感じるのは、日本人の秩序的な考え方、冷静な行動が関係していると思います。行政から自粛の要請がでると、ほとんどの人がそれを守り、お互いさまの精神を発揮できることが大きいと思います。東日本大震災の時の避難所で、きちんと列を作って、誰一人割り込むことなく配給を待っていた日本人の素晴らしさを全世界が称賛したのを思い出します。皆で何とか乗り越えましょう。

次ページへ続く

前ページから続く

今年度の当院の最大のニュースは消化器センター長の交代です。二宮先生が退任され、我々の出身教室である広島大学大学院医系科学研究科外科学の准教授であった村上義昭先生が着任されます。先生は日本における胆膵外科のトップリーダーであり、また広島大学寄附講座 広島記念病院高度医療講座教授にも就任され、当院において更にアグレッシブな治療が出来るようになります。すごく男気があって人間味のある先生であり、当院の消化器センターを盛り上げていただけるものと確信しております。

医師が変わりましても当院の使命、すなわち消化器センターを中心に消化器疾患に関する高度な医療を提供すること、そして、地域包括ケア病棟を活用して地域医療に貢献することは全く変わりません。患者さんが安心して受診できる安らぎの環境を整備し、信頼と満足感の得られる最高の医療を提供するため、職員一同、努力したいと思っておりますので、今年度もよろしく願いいたします。

消化器センター長 挨拶

消化器疾患に対する専門性の高い 高度な医療の提供を目指して

消化器センター長 村上 義昭



広島記念病院消化器センターは、2016年5月、消化器疾患に特化して、高度な消化器疾患の診断・治療の提供を目指して開設されました。

消化器の疾患は、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、膵臓、胆道など多くの臓器の疾患が含まれていますが、現代の医療では、それぞれの臓器に特化した専門性の高い診療が必要とされています。消化器センターでは、その診断・治療を通して、上部消化管(食道・胃)、下部消化管(小腸・大腸)、肝胆膵消化管(肝臓・膵臓・胆道)の専門医が、それぞれの臓器に特化した診断・治療を目指しております。

消化器疾患の診断では、2019年に内視鏡センターをリニューアルオープンし、安心して苦痛の少ない精度の高い内視鏡診断を目指すとともに、食道・胃・大腸などの早期がんに対しては、内視鏡下切除などの治療も積極的に施行しております。また、CT検査、MRI検査は、近年の消化器疾患の診断においては欠かすことのできない検査です。放射線診断医と連携し、的確な診断を目指します。

次ページへ続く

前ページから続く

消化器疾患の治療では、潰瘍性病変、肝炎などの良性疾患に対する内科的薬物治療のほか、多くの消化器の悪性腫瘍(がん)に対する外科的治療を積極的に施行しております。現代の医療では、胃、大腸などの悪性腫瘍(がん)に対しては、患者さんにやさしい低侵襲の腹腔鏡を駆使した手術が標準手術となっており、当センターにおいても多くの胃、大腸などの悪性腫瘍(がん)に対して腹腔鏡による手術が施行されています。一方、肝臓・膵臓・胆道の悪性腫瘍(がん)は進行がんの患者さんが多く、外科的切除には高度な手術手技が必要となりますが、日本肝胆膵外科学会で認定された高度技能指導医・専門医が、外科的切除が困難な症例に対しても、患者さんの長期生存を目指して、積極的な外科的切除に挑戦しています。消化器の悪性腫瘍(がん)の治療では、これらの悪性腫瘍(がん)に有効な多くの新しい抗がん剤、分子標的薬が開発され、現代の医療では、これらの薬物を併用した集学的治療が重要です。消化器センターでは、外来化学療法室と連携し、積極的にこれらの薬物療法を駆使し、消化器の悪性腫瘍(がん)の患者さんの長期生存を目指します。

消化器の疾患は、悪性腫瘍(がん)をはじめとしてまだまだ難治性の疾患が多くあります。しかし、近年、新たな抗がん剤、分子標的薬の開発、外科的治療の進歩などにより、その治療成績は向上しております。早期診断・治療、あきらめない治療をコンセプトに、消化器疾患患者さんの治療成績の向上に寄与したいと考えております。

「排便機能外来」開設のお知らせ

～便秘・便もれ いっしょに解決しませんか?～

消化器外科医長 矢野 雷太

排便機能外来とは

慢性便秘症や便失禁に対する治療はここ数年で大きく進歩しており、かつては治療困難であった病状でも治せる可能性が広がっています。

排便の悩みから解放され自分らしい生活を取り戻していただけるよう、一般診療ではほとんど受ける機会のない排便機能に特化した検査や治療を提供することができる専門外来を立ち上げました。

慢性便秘症や便失禁で悩んでいる人の中には、外食や旅行を控えたり自分に自信が持てなくなるなど、生活の質に影響が出ている方もいます。恥ずかしさや他人に知られることへの抵抗感から、誰にも相談できずに一人で悩んでいることも少なくありません。

次ページへ続く



前ページから続く

当院の排便機能外来は、3ヶ月以上継続して排便機能障害で悩んでおられる人を対象とした、完全予約制の専門外来です。急に便秘になった方や、急に下痢になって便失禁をきたした方は、他の消化器疾患が原因である可能性が高いため、一般外来を受診して下さい。

排便機能障害とは

便秘

便秘とは、「本来体外に出すべき糞便を十分量かつ快適に排便できない状態」と定義されています。つまり、毎日排便がなくても十分量かつ快便に出せていれば便秘ではありませんし、毎日排便があってもすっきり出ていなければ便秘であると言えます。

便失禁

便失禁とは、「無意識または自分の意志に反して肛門から便がもれる症状」と定義されています。便意を感じてもトイレまで我慢できずに漏れる切迫性便失禁と、便意を伴わず気づかないうちに漏れる漏出性便失禁とがあります。

便秘や便失禁の原因

慢性便秘症

慢性便秘症の原因として、生活習慣や心理状態の影響、加齢、他の疾患の影響、他の疾患の治療で使用している薬の影響、過去の手術の影響、下剤の使いすぎで効かなくなる、間違った排便姿勢、間違ったいきみ方、などが挙げられます。その結果、便が腸の中を通過する時間が長くなってしまったり、便が直腸まで来ているのにうまく排出できなかつたりして、便秘になります。

便失禁

便失禁の原因として、生活習慣や心理状態の影響、加齢、出産歴、他の疾患の影響、他の疾患で使用している薬の影響、過去の手術の影響、などが挙げられます。その結果、肛門を締める筋肉の機能低下、直腸肛門の感覚異常、直腸の容量の減少などが複合的に関与して、便失禁をきたします。

次ページへ続く



排便機能障害の検査について

- 問診と、腹部および肛門部の診察のほか、一般的な検査として血液検査やレントゲン検査、大腸内視鏡検査があります。
- 専門的な検査として、直腸肛門内圧測定、排便造影検査が受けられます。
- 直腸肛門内圧測定：細い管を用いて、安静時に無意識に肛門が締まっている状態での肛門内圧や、意識して締めたときの肛門内圧などを測定する検査です。肛門を適切に締めたり緩めたりできているか調べる事ができます。
- 排便造影検査：検査室に便器を置き、直腸に注入したバリウムを便の代わりに排出する様子を、レントゲンで撮影する検査です。準備が整った後は隣の部屋のマイクで指示を出しながら撮影装置を操作するので、検査室の中にあなた一人で、実際に排泄している様子を見られるわけではありません。レントゲン画像の動画を撮影し、直腸や肛門の動きを評価します。

排便機能障害の治療について

- 内服薬による便の性状や便通のコントロールも行いますが、食事・生活・排便習慣の見直し、排便姿勢といきみ方の指導や、骨盤底筋群の運動訓練などを行い、排便状況が改善してくると薬を減らしていける方も多くいらっしゃいます。これらの治療で十分な改善が得られない場合には、以下のような治療法があります。
- 骨盤の支持組織が緩んで、直腸が肛門から脱出する人(直腸脱)や、いきんだときに直腸が膈の方に押し出されて便が十分に肛門から排出できない人(直腸瘤)など、構造的な問題に対しては手術療法を行うこともあります。
- バイオフィードバック療法：直腸肛門内圧測定の機器を用いて、肛門を締める筋肉がうまく使えているかを視覚的に確認しながら、筋肉の収縮訓練を行う治療法です。
- 仙骨神経刺激療法：心臓のペースメーカーのような機会を殿部に埋め込んで、排便に関与する神経(仙骨神経)を継続的に電気刺激することで、便失禁の症状を改善させる治療法です。



受付時間：毎週木曜日 13時～15時（完全予約制）

担当医：消化器外科医長 矢野 雷太

広島記念病院「理念」及び「基本方針」

理 念

患者の皆様が安心して受診できるやすらぎの環境と、満足や信頼の得られる最良の医療サービスを提供すること。

基本方針

1. 安全で良質な医療を安定的かつ恒常的に提供します。
2. 地域における機能分担と連携の確保を図りながら地域医療に貢献します。
3. 情報の共有化と効率化を目指し医療のIT化を促進します。

地域医療連携室

TEL 082(503)0730
 FAX 082(503)1010
 代表 広島記念病院
 TEL 082(292)1271
 FAX 082(292)8175

内科・外科

FAX 082(503)0722
 婦人科・小児科
 FAX 082(503)0723
 耳鼻科・皮膚科・泌尿器科
 FAX 082(503)1010

記念寿

TEL 082(294)8400
 FAX 082(294)8420
 合庁(合同庁舎診療所)
 TEL 082(221)9411
 FAX 082(223)6204
 歯科診療所
 TEL 082(294)7858

外来診療担当表

2020年4月1日より、下記のとおり診療致します。
 赤字が変更箇所です。

診療科	受付時間	区 分	月	火	水	木	金	土
内 科	8:30~11:00	一 診	赤 木	阿座上	赤 木	赤 木	城 戸	当番医
		二 診	江 口	西 山	城 戸	江 口	西 山	
		三 診	國 原	山 田	國 原	阿座上	山 田	
		四 診	佐 倉			佐 倉		
総合診療科	8:30~11:00		横 崎		石田(亮)		休 診	
外 科	8:30~11:00	一 診	宮 本	橋 本	坂 下	宮 本	坂 下	当番医
		二 診	豊 田	小 林	横 山	橋 本	小 林	
	13:00~14:30	三 診	角 舎	村 上	豊 田	村 上	矢 野	
		二 診	宮 本	橋 本	坂 下	宮 本	坂 下	
排便機能外来	13:00~15:00 完全予約制※					矢 野	休 診	
肛門外科	8:30~11:00			石田(裕)	石田(裕)		手 術	休 診
	13:00~14:30		石田(裕)	手 術			石田(裕)	
婦人科	8:30~11:00	一 診	横 田	横 田	横 田	横 田	横 田	休 診
小 児 科	8:30~11:00	一般診療	岸	岸	岸	岸	岸	
	13:00~16:00	健診・予防接種	岸	岸	岸	岸	岸	
耳 鼻 咽 喉 科	8:30~11:00	一 診	森	森	森	森	森	
	13:00~14:30		森			森	特殊検査	
皮 膚 科	8:30~11:00		玉 理				沼 田	
泌 尿 器 科	9:00~11:00			井 上		池 田	林	
眼 科	8:30~11:00	一 診		藤 東		藤 東	小 松	
広島記念 診療所 歯 科	8:30~11:00		山 田	山 田	山 田	山 田	山 田	電話番号 (082) 294-7858
	13:00~16:00		山 田	香 川	山 田	山 田	上 平	
ストーマ外来	8:30~11:00			森 本	森 本	山本(由)	山本(由)	

※土曜日は内科一診、外科一診のみ診察しております。
 ※歯科を除く各診療科の再診受付は8:00よりおこなっております。
 ※排便機能外来は完全予約制です。受診をご希望の方は、地域連携室へお問い合わせください。
 部分は女性医師です。
 *8月1日は開院記念日のため、休診になりますのでご了承ください。

広島記念病院案内図



交通のご案内

JR 広島駅より市内電車宮島行き・己斐行・江波行にて、
 本川町電停下車、南へ100メートル徒歩1分
 広島バス商工センター行き・祇園大橋行きにて
 本川町電停下車、南へ100メートル徒歩1分
 広島駅前よりタクシーで約10分

駐車場

立体駐車場62台
 身障者専用駐車場3台

詳細は病院ホームページをご覧ください